

卒業研究（造形デザイン学科）ルーブリック

No.	到達目標	評価基準				
		90%以上	89~80%	79~70%	69~60%	59%以下
		S（極めて優れている）	A（優れている）	B（良い）	C（普通）	D（1つでもあてはまれば不合格）
1	卒業研究に主体的且つ計画的に取り組むことができる	研究テーマおよび関係する分野に深く興味を持ち、自ら具体的なテーマを設定し、積極的且つ計画的に卒業研究に取り組むことができる	研究テーマおよび関係する分野に興味を持ち、具体的なテーマを設定し、積極的且つ計画的に卒業研究に取り組むことができる	研究テーマに興味を持ち、設定したテーマのもと、計画的に卒業研究に取り組むことができる	研究テーマに沿って、自ら計画的に卒業研究に取り組むことができる	自ら、計画的に卒業研究に取り組むことができない
2	現代社会との関連に基づき、ビジュアルデザイン関連分野における課題を見出すことができる	指導教員の助言を参考に、自ら研究分野の現状を見極め、本質的な課題を見出すことができる	指導教員の助言を参考に、研究分野の現状を見極め、本質的な課題を見出すことができる	指導教員の指導の下、研究分野の現状を見極め、課題を見出すことができる	指導教員の指導に従い、研究課題を見出すことができる	研究課題を見出すことができない
3	課題の解決に向けた調査・研究を進めることができる	指導教員の助言を参考に、自ら考え、試行錯誤を何度も繰り返しながら、より説得力のある解決策を自ら導き出すことができる	指導教員の助言を参考に、自ら考え、試行錯誤を何度も繰り返しながら、より説得力のある解決策を導き出すことができる	指導教員の指導の下、試行錯誤を繰り返しながら、説得力を伴った解決策に到達することができる	指導教員の指導に従い、調査や研究を進めることができる	調査や研究を進めることができない
4	調査・研究成果を元に作品を制作し、その過程を研究ノートにまとめる事ができる	データや事例を元に、問題解決に向けて強い説得力を有する作品を制作し、研究ノートを通じてそれらについて明快かつ論理的に説明することができる	データや事例を元に、問題解決に向けて説得力を有する作品を制作し、研究ノートを通じてそれらについて分かりやすく説明することができる	問題解決に向けて説得力を有する作品を制作し、研究ノートを通じてその内容を説明することができる	問題解決に向け、一応の説得力を伴った作品を制作し、その内容について研究ノートにまとめることができる	作品を制作し、研究ノートにその制作過程について説明することができない、若しくは正統な理由無しに指定期限に提出しない
5	学科が主催する発表会（中間発表会及び最終発表会）にて、研究内容を発表することができる	自身の取り組みについて熱意や想いを込めて、聴衆がよく理解できる口頭発表をすることができる	自身の取り組みについて熱意や想いを込めて、聴衆が理解できる口頭発表をすることができる	自身の取り組みについて聴衆に伝わるように口頭発表をすることができる	自身の取り組みについて口頭発表をすることができる	研究内容を発表することができない、若しくは正統な理由無しに指定日に行わない